

国語科学習指導案

I 単元 おすすめ！私のこの1冊（『広がる、つながる、わたしの読書』『千年の釘にいどむ』）

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

友達と積極的に関わりながら、読書で得た感動を伝えたり、読書への興味を広げたりしようとする態度

①知識・技能

読書が自分の興味を広げること
に役立つことについての知識

②思考力・判断力・表現力等

本の魅力を明確に捉え、それを端的に表現し、友達と伝え合い、読書のよさについての考えを広げる力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

〔知識及び技能〕(3)

オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること
に役立つことに気付くこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと(1)

カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

(3) 単元の価値

本単元では、自分が選んだ本を読んでほしい相手を想定し、本の魅力を推薦文に書き、メディアルームに掲示して伝える活動を行う。その価値は以下のとおりである。

自分が選んだ本を読んでほしい相手を想定し、推薦文を書いてまとめる際には、本の魅力を内容と表現の両面に着目して具体的に捉えなければならない。また、本の魅力を書いた推薦文を実際に掲示して伝えることは、自分とは異なる興味をもった人の選んだ本や、異なる目線で捉えた本の魅力を知ることとなり、本の新たな魅力を見付けることにつながる。そのため、活動を通して、読書が自分の興味を広げること
に役立つことについての知識を高めることができる。

また、子どもたちは推薦文を書く際に、本の魅力を友達と話し合う中で、自分が捉えていた本の魅力がより具体的になったり、異なる魅力を発見したりする。そのため、活動を通して、本の魅力を明確に捉え、読書のよさについての考えを広げることができる。

附属小学校には読書に親しもうとする子どもが多く、休み時間にはメディアルームへ進んで足を運び、興味のある本を見つけて読んでいる。読書を通して知識を得たり、非日常的な物語の世界を体験したりすることは、子どもたちの大きな喜びとなっている。そのため、自分で選んだ本の魅力を伝え合うことは、互いに感動を共有し、読書への興味を広げることにつながる。

また本単元では、本の魅力を話し合う際の共通の教材として、『千年の釘にいどむ』を扱う。その

価値は以下のとおりである。

本教材は、薬師寺の再建にあたり、古代の人々が用いた釘を再び作ろうとする過程を描いた説明的文章である。この教材は、千年以上の使用に耐える釘を作った古代の人々の技術に関わる事実や、それを再び作る白鷹さんの発見や情熱等、子どもたちが興味をもちやすい複数の話題で構成されている。そのため、子どもたちが本を読んでほしい相手を想定したり、具体的な内容や表現に着目して推薦文を考えたりしやすい。また、子どもたちが本教材で異なる相手を想定して推薦文を作成した際には、推薦文の内容を比較することを通して、互いが捉えた本の魅力への興味をもちやすい。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「読書に親しもう」(『私と本』『森』)における、本を読んで印象に残ったり考えたりした事柄を、文章全体を見通して整理しながら感想文にまとめ、伝え合う学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、4年「心に残ったことを感想文に書こう」(『プラタナスの木』)において、興味をもった物語を読んで感じたことを感想文で伝え合う学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 自分が興味をもった本を選んで読み、読書が自分の知りたい知識や情報を得ることに役立つことについての知識を身に付けてきている。このような子どもたちが、推薦したい本を選んで読み、読書が自分の興味を広げることに役立つことについての知識を身に付けることができるよう、本を読んでほしい相手や推薦文のモデルを基に、表現された本の魅力を話し合う活動を設定する。
- ② 情景描写や会話文等の叙述に着目して登場人物の行動や心情の変化について感想文で伝え合い、互いの考えの共通点や相違点を見付けることができるようになってきている。このような子どもたちが、具体的な叙述を基に本の魅力を推薦文で伝え合い、互いの共通点や相違点を基に捉えた魅力を明確にできるよう、ペアで同じ本を選んで読み、本の魅力を表現した推薦文を、本の具体的な叙述を提示しながらペアで話し合う活動を設定する。
- ③ 自分の体験と関わらせながら、進んで物語を読もうとする態度を養ってきている。このような子どもたちが、自分が捉えた本の魅力を明確にして話し合い、積極的に読書への興味を広げようとすることができるよう、作成した推薦文をメディアルームに掲示し、読み手からもらった感想を基に学習を振り返る活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 本の叙述を基に、推薦文の内容を話し合うことを通して、捉えた魅力を明確にしたり、新たな魅力に気付いたりすることができる。
- 2 準備 拡大した推薦文のモデル 選んだ本 推薦文の下書きプリント 振り返りカード
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読んでほしい相手は「夢をもちたい人」なのに、推薦文にはそれに関わることがあまり書いていないから、主人公が生き生きと夢を追いかける場面について書いたらどうかな。 ・同じ本なのに、読んでほしい相手が全然違うのはどうしてだろう。 <p>2 ペアで推薦文の内容を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕の書いた推薦文を友達にも読んでもらいながら本の魅力を話し合おう。 ・僕は「スポーツに熱中したい人」に読んでほしいよ。でも友達は「人間関係に悩む人」に読んでほしいのか。 ・この物語は、卓球というスポーツを通して登場人物が成長していくところがおもしろいし、それが会話を読んでいくとよく分かるのも特徴だよ。 ・僕が「スポーツに熱中したい人」に読んでほしいのは、○ページや△ページに書いてある主人公が卓球に夢中な様子が、読み手をワクワクさせてくれるからだよ。 ・「スポーツに熱中したい人」に読んでほしいけど、推薦文からは「熱中」するほどのワクワク感が伝わらないみたいだな。主人公の様子を引用してみるとよいかもしいな。 ・友達はどうして、「人間関係に悩む人」に読んでほしいと考えたのかな。僕はそんなふうには考えなかったから聞いてみたいな。 <p>3 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が紹介したい本の魅力を友達に話したら、友達も分かってくれたし、推薦文の言葉をよいものに変えることができたよ。これを推薦文の清書に生かしていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本の魅力を話し合うという本時の見通しをもてるよう、読んでほしい相手と推薦文のモデルの内容とのつながりを修正する方法を問いかける。 ○友達と推薦文を話し合う必要感をもてるよう、同じ本を読んだペアが想定した読んでほしい相手の違いを紹介する。 ○視線を共有して推薦文を読みながら話し合えるよう、同じ本を読んだペアで隣り合って座るよう促す。 ○推薦文に書きたい魅力がペアで違うことを端的に捉えられるよう、選んだ本を読んでほしい相手を伝え合うよう促す。 ○複数の視点から本の魅力を話し合えるよう、推薦文に書く本の魅力を「内容面」「表現面」両方の視点から伝えるよう促す。 ○推薦文に書きたい魅力を明確にできるよう、付箋紙を付けておいた本の具体的な叙述を指し示しながら、自分が捉えた本の魅力を伝えるよう促す。 ○本の魅力を明確にできるよう、推薦文と読んでほしい相手とのつながりや、推薦文の修正方法を友達から聞くよう促す。 <div data-bbox="826 1451 1401 1653" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">選んだ本の具体的な叙述等を根拠にし、推薦文の内容を話し合ったり、推薦文を書き換えたりしている。〈発言・下書き②〉</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と話し合ったことで、選んだ本の新たな魅力に気付いたり、捉えた魅力を確かにしたりできたことを実感できるよう、話し合いを通して気付いたことや変化したことを振り返りカードに記入するよう促す。

指導と評価の計画（全6時間）

目標	本を読んで捉えた魅力を伝え合い、読書の興味を広げることができる。			
評価 規準	① 知識・技能)読書が自分の興味を広げることに関与することに気付いている。 ②思考力・判断力・表現力等)友達の考えや反応を基に本の魅力を捉え直し、魅力を推薦文に表している。 ③学びに向かう力・人間性等)気に入った本の魅力について、友達と関わり合いながら適切な言葉で紹介したり、友達の紹介を基に読書の興味を広げたりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ	1	○『千年の釘にいどむ』の魅力を話し合ったり、書店のポップの工夫を話し合ったりし、「本への興味を広げてもらえるよう、本の魅力を捉えて推薦しよう」という学習課題をつかむ。	○本の魅力を捉え、その本を読んでほしい相手を想定して推薦するという単元の見通しをもてるよう、『千年の釘にいどむ』を推薦したい相手とその理由を話し合う活動を設定する。	◇『千年の釘にいどむ』を推薦したい理由を、教材文の叙述内容を根拠に発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
	家庭	○選んだ本を読む。	○文章を読んで魅力を感じたところに目印を付けられるよう、付箋紙を用意する。	
ふかめる	1	○選んだ本の魅力を整理する。	○本の魅力を複数の視点から整理できるよう、「内容面」「表現面」の視点ごとに魅力を記入する学習プリントを用意する。	◇複数の視点から捉えた本の魅力を記述している。 <学習プリント②>
	1	○選んだ本を読んでほしい相手を決め、推薦文の下書きを書く。	○推薦文の下書きを書けるよう、読んでほしい相手や推薦文のモデルを用意する。	◇選んだ本の魅力を基に、推薦文の下書きを書いている。 <下書き②>
	1	○同じ本を選んだペアで、推薦文の内容を話し合う。(本時)	○互いが書いた推薦文の内容を話し合えるよう、同じ本を読んだペアで、付箋紙を付けた本の叙述を具体的に示しながら、読んでほしい相手や推薦文の内容を話し合う活動を設定する。	◇選んだ本の具体的な叙述等を根拠にし、推薦文の内容を話し合ったり、推薦文を書き換えたりしている。 <発言・下書き②>
	1	○推薦文の清書を書く。	○読んでほしい相手に適した推薦文を書けるよう、ペアで話し合ったことを生かして推薦文を書き換える活動を設定する。	◇推薦文の清書を完成させている。 <清書②>
ふりかえる	1	(書いた推薦文をメディアルームに展示し、見た人に感想をもらう) ○推薦文を読んだ人の感想を読み、学習を振り返る。	○本の魅力が推薦文の読み手にも伝わったことを実感できるよう、推薦文を読んだ人の感想を読み、単元の学習でできるようになったことを学習プリントに書く活動を設定する。	◇本の魅力を友達と伝え合ったり、友達の推薦文を基に読書の興味を広げられたりしたことを感想に記述している。 <学習プリント③>